

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所属 リハビリテーション学科

名前 大森圭貢

作成日 2023年9月28日

1. 教育の責任

私は、湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻学生を対象に、科目責任者として、日常生活活動学(必修、2年後期)、運動器系理学療法学(必修、3年前期)、日常生活活動学演習(必修、3年前期)、理学療法管理学Ⅰ(必修、3年前期)を担当してきた。またオムニバス科目の科目担当者として、理学療法教養基礎(必修、1年前期)、理学療法特論Ⅰ(必修、3年後期)、理学療法特論Ⅱ(必修、4年後期)の講義と演習の授業を行い、また実習科目の科目担当教員として、見学実習(理学療法)(必修、1年前期)、評価学実習(必修、3年後期)、地域リハビリテーション実習(必修、3年後期)、総合臨床実習Ⅰ(理学療法)(必修、4年前期)、総合臨床実習Ⅱ(理学療法)(必修、4年前期)の指導や評価を行ってきた。

理学療法学専攻における分掌としては、これまで教務委員会、学生支援委員会の委員を受け持ち、また健医療学部と薬学部の共通科目であるチーム医療論(必修、4年後期)のワーキングメンバーのリーダーなどを行ってきた。

これらの教育活動を通して、本学のディプロマポリシーを満たす学修、理学療法士国家試験に合格する学修の支援を行ってきた。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

卒業をする学生のほとんどは、障害を有する者の心身機能の改善、活動と社会参加の再獲得を目指す病院や在宅医療の場に就職している。これらの場における理学療法の対象は、医学的に状態が不安定な急性期の者から、医学的に状態が安定し、獲得した心身機能や活動、参加を維持しようとする生活期の者まで幅広い。このため、理学療法学専攻学生には、まずより多くの対象者に理学療法を提供し得るジェネラリストな理学療法士として活躍できるように、知識と技術を学修するための教育をするように考えている。それに加え、チーム医療や医療の進歩によって、高度な専門性を有するスペシャリストとしての理学療法士が求められている。このためスペシャリストとしての理学療法士の存在とその役割、必要性があることを示すようにしている。加えて理学療法の対象となるほとんどが、思いがけない疾患の発症や受傷によって障害を抱える人々であり、その後の身体や生活に不安を抱く当事者や家族は多い。このため患者、利用者そしてご家族の声に耳を傾け、不安や悩みなどの解決に対して、共に考えることのできる学生教育も不可欠であると考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私は、理学療法士になってから 20 年間を大学病院で理学療法士として従事し、その後、大学教員となった。大学病院時代は、様々な状態の患者を担当し、ジェネラリストな理学療法士と、スペシャリストな理学療法士の双方の必要性を実感した。

理学療法には、疾患に関わらず、すべての患者に共通して行うべき評価と実施すべき理学療法があり、これはジェネラリスト、スペシャリスト双方の基本となると考えている。そのため、まずはこのことを学部での教育、臨床実習などを通して、学修させるべきと考えるようになった。

他方、一般に多くの患者には求められないが、疾患による特異的かつ専門性の高い理学療法も必要になる。特に急性期に携わる理学療法士は、多種多様な複数の情報を解釈して患者の状態を推察し、また理学療法の実施によって生じる事象を想定し、対応するなど、専門的な臨床の場での実践と継続した学習が必要であり、学部での教育や臨床実習でのこのような理学療法士の学修は難しい。しかしこのスペシャリスタな理学療法士は、病院の機能分化や入院期間の短縮などの社会的背景の変化によってますます求められている。このような背景から、専門的なスペシャリストについても理解をしてほしいと考え、前述する私の理念に至った。

3. 教育の方法・戦略

科目責任者を務める授業の対象が2年生後期と3年生前期の学生である。このため、大きく2つのことに配慮をして授業を行っている。

ひとつ目は、新たに教授する知識・技術を、2年次前期までに習得した解剖学・生理学・運動学の知識と関連づけて示すことである。得られた知識を記憶するには、「記銘」、「保持(貯蔵)」、「想起」という3つのプロセスがある。「記銘」とは、「覚える」こと、すなわち脳に情報をインプットすることであり、「保持」とは、脳がその情報を維持し続けることである。そして「想起」は、脳の中にある情報を引き出す「思い出す」ことである。記憶をするには、この「記銘」、「保持」、「想起」の一連の過程を反復することが必要である。しかしながら、学生は「記銘」、「保持」された知識を、「想起」する機会は少ないと考えている。授業において過去に学修した内容に触れ、「想起」の機会を設け、想起の可否にかかわらず、「記銘」、「保持(貯蔵)」、「想起」の機会を設けている。なお、学生が「想起」することが難しい場合には、音声言語や非音声言語による手掛かりを示し、最終的には学生自ら想起に至り、表出できるような無誤学習過程となるように配慮をしている。また小テストを行い、重要な項目を反復する機会を増やしている。

ふたつ目は、授業中は、学生の表情を観察しながら進めることである。これまで学生個々の知識の量や理解の量には大きな差があることを経験してきた。知識の量が多く、理解が進んでいる学生に合わせて授業を進めた場合には、知識の量が少なく、理解の進みが遅い学生は、より知識の蓄えは難しくなり、理解も滞ってしまう。授業を受けたにもかかわらず、理解できなかった、分からなかったという経験は、その後の授業の出席、聴講に負の作用をもたらすと考える。そのようなことがないように、学生の表情を観察し、理解ができていないようであれば、かみ砕いた説明を改めて行うようにしている。なお、講義や演習で用いる口頭での説明は、学生の聴覚把持能力に頼るものであり、情報を記憶するための刺激としては、すぐに消失する特徴がある。このため視覚的にも十分な刺激

となるように、写真や映像を駆使している。このような教材は、教授した知識や技術が臨床の場でのように活用されているかの擬似体験として、また障害像の理解のため、言葉では伝わらない臨場感を示すことに役立っている。

4. 学習成果

- 2021年度、2022年度理学療法士国家試験受験者の合格率 100%
- 大学院修士課程指導学生の論文発表 3 件
 - ✓ 清野由也, 大森圭貢, 城所亮多, 長澤弘. 脳卒中患者の身体活動に関する研究の動向. 理学療法:技術と研究, 50;39-52, 2022
 - ✓ 最上谷拓磨, 大森圭貢, 松嶋真哉, 小野寺英孝. 脳卒中患者の ADL 回復に関連する栄養指標の文献検証. 理学療法:技術と研究, 50;77-84, 2022
 - ✓ Takuma Mogamiya, Yoshitsugu Omori, Junichi Kawagoe, Takuto Kaneda, Shinya Matsushima, Hidetaka Onodera. Association of Activities of Daily Living with Body Weight Change 3 Months After Stroke Onset . J Stroke Cerebrovasc Dis. 31(8):106573.2022
- 大学生に対する教育方法、大学生の健康感に関する共同研究発表 2 件
 - ✓ 中村壽志, 大森圭貢, 下田栄次, 坂上昇. 知識構成型ジグソー法による学習と動機付けの変化—理学療法士国家試験の学習における成績ごとの特徴. 理学療法科学. 37(5):489-494.2022
 - ✓ 中村壽志, 大森圭貢, 大矢暢久, 下田栄次, 坂上昇. 早期臨床体験における主観的健康感の変化 本学理学療法学専攻 1 年生への調査. 専門リハビリテーション 19 巻 53-57, 2000

5. 改善のための努力

- ✓ 科目に費やす勉強時間数が短い
教授する内容は必要最低限とした。その結果、勉強時間の平均は他の科目の全体平均より多くなったことを経験した。授業においては、基本となる事柄を中心に教授していく。さらに学生が疑問を感じた際に、自己解決しようとする教授量、教授の範囲などを模索していく。
- ✓ 板書平均、環境平均は全体平均と同等である
板書を用いる機会は少ないが、板書した内容はほとんどの学生が資料などへの書き込みを行っている。理解を深めてほしい点については、資料への記載に加えて板書し、学生自らが記録する機会を設ける。

6. 今後の目標

長期目標

高齢化や医療技術の進歩, 医療に対する意識の変化などにより, 理学療法士に求められる能力が高まっている。このため、理学療法士免許を取得したのちの、生涯学習が求められている。本学は、修士課程、博士後期課程を有していることから、疑問や課題を研究という手法を用いて解決を考えることのできる教育環境が整っている。修士課程、博士課程へと進学し、就職後の臨床経験と通して生じる疑問や課題解決を図る卒業生を増やしたい。

短期目標

理学療法学専攻の学生の最終目標は、理学療法士国家試験を受験した学生全員が、合格することである。理学療法学専攻では、2021 年度、2022 年度の理学療法士国家試験を受験した全学生が合格している。国家試験対策である理学療法特論Ⅱの科目担当教員でもあり、理学療法国家試験受験者全員合格を続けることである。

【添付資料】

- ✓ シラバス
- ✓ 開発教材(内部障害理学療法学テキスト、南江堂、東京)
- ✓ 学生アンケート
- ✓ 発表論文(理学療法:技術と研究、50;39-52、2022.、理学療法:技術と研究、50;77-84、2022.、J Stroke Cerebrovasc Dis. 31(8):106573.2022. 理学療法科学. 37(5): 489-494.2022.、専門リハビリテーション 19 巻 53-57、2000.)